

①、20.トマホリのセッティング
(トマホリ) - 一本太さる部分で、一段階に、このように
②
スコアリング

WOLF のセッティング

WOLF を持、ている人で うまく走らず"セッティング"で
なやんで いる人は いますか？
これを 読んで もう一度 セッティング"して みて ください。
必ず"走る ように なるはず"です。

スコアリングは WOLF の場合 ノーマルで十分ですが
下には さむい ツェッパ - の スコアリング 任を 夢見る こと
に スコアリング 特長 2 倍 2.3 倍 ことが できます。
ほとんどの コース は キットの 説明書 にも あり、
の ツェッパ - 1 枚 で いい と思 いますが もと 勿論
クックに したい ときは クック が 悪く も ツェッパ -
まきこむ ような ときは もう一 枚 は 入ん で くれ
速に クック が ぶく スコア - 入る 時の とき
クック - を 0.3 - 0.5 に入 る か と して、
走 行 時 にも より 早く スコア - が 入る こと
自分 が より 早く 走 る こと
30 で
40 で
10 の 横 線 の 上 が 10 分 まで

By Fatsuhiko Yamada

①〈フロントまわりのセッティング〉

1-1

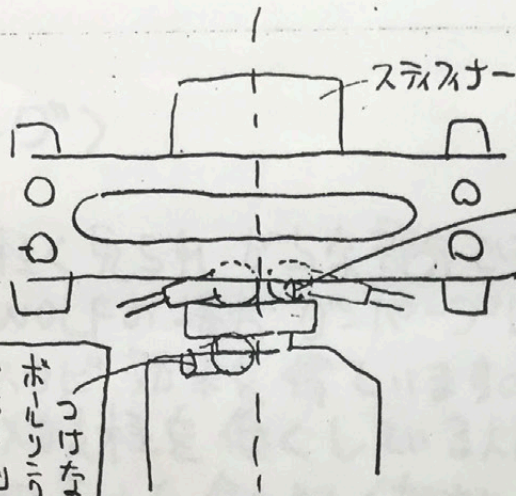
(トーン・トアウト) 一番大事な部分です。一般的にトーンにすると初期はあまり入りませんがコーナーに入るとからはよくまがるようになります。トアウトにするとコーナーの初期はクイックになりますがパワーステア(高速コーナーもよくまがる)においてはアンダーステアになります。WOLFの場合1~20℃以下にするとよいでしょう。この部分はほんの少し重かすだけで大きく変わってしまうため、あらかじめ試して調子が悪くなることもあるので必ず確認してください。

1-2

(スプリング)

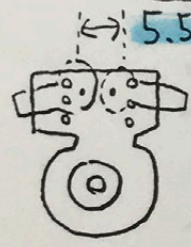
スプリングはWOLFの場合ノーマルで十分ですが下にはさむワッシャーでスプリング圧を変えることによりステアリング特性を変えることができます。ほとんどのコースはキットの説明書どおり0.5mmのワッシャー一枚でいいと思いますがもっと初期をクイックにしたいときやクワッパが悪くてコーナーの出口でまきこむようなときはもう一枚はさんでください。逆にクワッパがよくてアンダーステア気味の場合はワッシャーを0.3mmに変えるかとりさしてください。走行量にもよりますがスプリングがへたってくると車がよれたりまきこんだり調子が悪くなりますのでスプリング圧が弱くなってきたら交換して下さい。だいたい1~2ヶ月以下で1回交換するのが目安です。

1-3
(アッカーマン)



サスメンバーとサーボセイバーの部分は2~3mmにしてください。これ以上間をあけてタイロッドを平行にするとリックにはなりますが走らせにくい車になります。

サーボセイバーの取り付け方！
↑



サーボセイバーホーンはステアスターの中心に左右のステアリングが変わらないのでよい。

サーボセイバーホーンは図のようによせると(ボールジョイントの場合)走行性がよくなる。

1-4
(その他)

- タックルはベアリングとの間にガタがでたら交換してください。
- キングピンはねじが当たるピンをDカットするとぬけなくなります。
カスリなどで
- キングピンの動きが悪いときはシリコンルーブなどをぬるとスムーズになります。
- RPサスメンバーには4WD用のチェーンガイドを取り付ける穴が空けてあります。4WDにしない人はここにもう一本タックルストッパーをつけておくとぶつかたときにサスメンバーがズレにくくなります。

②くりやのセッティング

2-1

(ダンロ-フォルト) 軽く見られがちな部分ですが かなり大事な部分です。WOLFの場合 ダンロ-フォルトのしなりによりスタビ効果を 得ていますので 重心をさげるために Xカ支柱を低くしている人は 必ずその分 ダンロ-フォルトの高さを 合わせてください そのままですと パワー-ア-ダ-が 出てしまいます。逆にいえば ダンロ-フォルトのしなりにより パワー-ア-ダ-の量のセッティングが できるわけです。次にワッシャーですが アジの物に変更している人も 自分で作っている人も いますが ここは どのワッシャーを使うか ではなくて どのくらいスムーズに 動くかが 大事ですので 実際に 動かしてみても 少しいひかりもなく スムーズに 動けば いいわけで ノーマルのワッシャーでも スムーズなら 十分です。感覚的に むずかしいのですが 少しでも キコキコと ひかかるような 動き方を する場合は ネジを 少しゆるめて 直れば いいのですが だめな時は まよわず 交換して下さい。

そのままですと はねるだけでなく ステアリングにも 悪影響 が 出てしまいます。

ここには、オイルも ミリコニル-つ も なにも つけなくて ください。ロールしたときのもどりが 悪くなり 逆に はねて しまいます。

ネジのしめ方は グリップが よければ 強めに グリップが 悪ければ 弱めに キヤップが 少なければ 強めに キヤップが 多ければ 弱めに するのが 基本です。

(ボールデフ)

ボールデフのメリットは、路面がグリップしてパワーがかかる所で車が前に進むという点です。
 中・高速コーナーに有利な反面グリップが悪かったり
 ハブコネなどのようにグリップとまわるコーナーでは
 ギヤ・デフにくらべて不利になります。

ボールデフは、整備が面倒なのとスムーズでなくなるとすぐ走りにあらわれてしまうので次のことをよく守ってください。

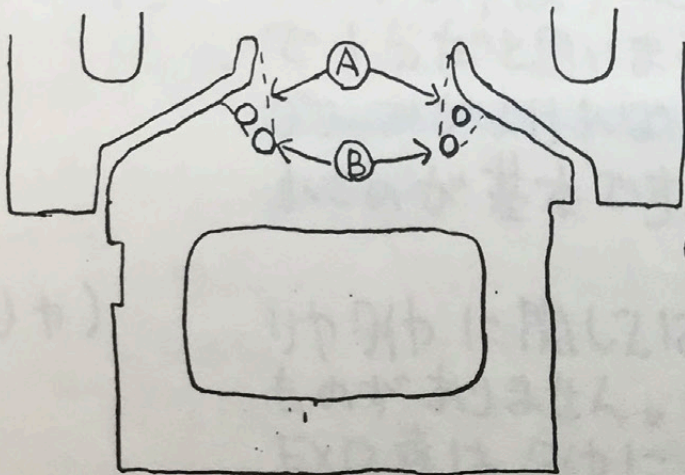
- (1) デフは1日(バッテリーにして5~6本)走らせたら必ず分解・整備をしてください。
- (2) 整備の方法は、まず分解しスパーギヤ、リング、ベアリングについたゴミを洗浄剤できれいに洗い流してから右ハブのはまるシフトの部分にオイルをぬります。(左ハブと右ハブのリングのはまる所にはつかないように) そしてスパーギヤのボールの部分にシリコンルーブ(パーマ製か川田模型より近日発売のもの)を少しぬるにつけてください。ここには普通のオイルを塗っても軽くなりますがスパーギヤが劣るようになってしまうのでシリコンルーブの方がよいと思います。
- (3) そしてもう一度組み立てて終わりですが、ナットの締め方が悪いはスパーギヤを指でまわしてすべらずデフが軽く(モーターと夕やをつけスパーギヤをおさえなくて片方の夕やをまわしたときに反対の夕やが逆さまになるようにするとBESTです)なればOKです。
- (4) デフの部品はすべて消耗パーツですので②の整備をしても軽くならないときは、ボール、スパーギヤ、リング、ベアリングの川原に消耗しますので交換してください。

⑤ はげしいドラッグをしますとシカゴのインナーハブがズレてしまうことがあります。そうなるとシカーシをいくら平行にあわせても右まきが出てしまわれるのでシカゴを交換してください。しるべの方法としては、デフを手でまわすと軽くなったり重くなったりするとシカゴを手でまわして右ハブのホルの取りつける面がふたつあるかどうか見る 2つです。

2-3
(その他)

- 左ハブは必ず2個のネジでとめてください。カーボニシカゴの場合ネジの当たる部分をDカットするとよいと思います。
- ホルの取りつけるビスはあまりしめないでください。ハブが樹脂ですのでゆるめでもはずれませんがしめすぎるとハブがバカになります。
- モーターマウントの下側りは必ず400番ぐらいのペーパーでけずって面とりをしてください。
- テクニゴールドや大きいピニオンつけた場合、モーターマウントの前のシカゴやXカブレットに当たることがあります。SPモーターマウントの場合シカゴをとっても大丈夫です。Xカブレットに当たる場合はヤスリでけずってください。

③ <シャーシ>



オプションで発売している
シャーシにはリヤ部に3mmの
穴が4つあけてあります。
グリップがよくても悪くても
③までカットしてください。

(LIMITEDは最初から加工があります)

さらに点線のように加工すると
よりグリップが向上しますが
あまりけずりすぎると車が前に
進まなくなります。

- シャーシスプリングは、2WDでも4WDでも必ず取りつけて
ください。はり方は、最初にネジをとめないで
たいたな かつらなどの上におき 2つの穴を合わせて
まわりに瞬間接着剤を流してください。
ネジでとめるのは、接着剤がかかりしてからしめみます。
最初にネジをとめたまま接着剤をつけると シャーシが
ひねられたままついでしてしまうことがあるからです。
- 4WDにしない人は、Xカ支柱を25mmぐらいのものに変えると
重心がさがり 安定した走りができます。
(その時にも必ずダンパーの高度を合わせてください。)
- シャーシも消耗品です 走行量にもよりますが
クラッシュしたときにひねりやすくなったら 交換してください。

④ くタイヤについて

4-1 (フロント) フロントタイヤは、現在どんなコースでもロ=グライフで十分だ"と思います。ベスト径は45~46mmでグリップがよければ大きめ、グリップが悪ければ小さめが基本です。

4-2 (リヤ)

リヤタイヤに関しては現在、これについてすすめられるものはありません。レースでいい成績をおさめているEXP達は、タイヤにポリリなどのグリップ剤をぬって成功していますのでここではその方法を書くことにします。

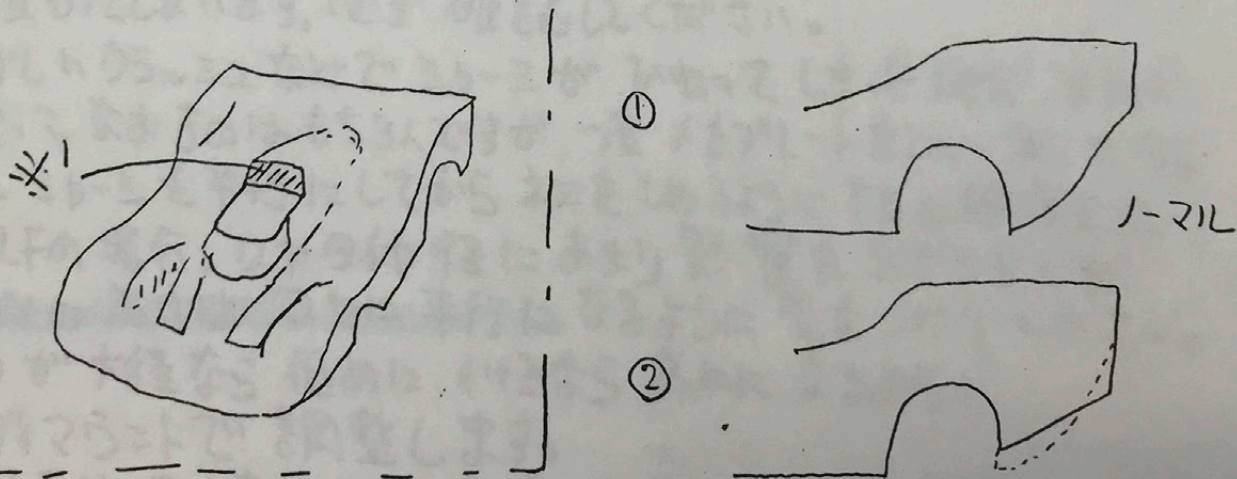
- 少なくともレースの2日前には、ぬってください。
- タイヤの横側には、ぬらないようにしてください。コーナーでひっかかたようになりイネルことがあります。
- ぬったらビニール袋などにいれてよくもむ(手では直接もまないように)
- 2日ぐらいたったら、タオル等で表面のフイルがなくなるまでよくふいておわりです。
- ぬるのは早ければ早い方がいいとみえますので効果は持続しますが、1ヶ月のま 3日以上絶対おかないでください。レースでつかわない場合でもぬったら2~3日でふきと、おくこと。
- 効果は1回しかもちませんので走ったらまた同じことをくりかえしてください。

(これはポリリのタイヤ専用のやり方で他のものでは方法が異なる場合があります)

- リヤタイヤのベスト径は、51~54mm ぐらいです。

⑤ (ボディ (カワダスノビヤル) について)

- ボディによるセッティングについては大きく分けて2種類あります。ドライバー人形をそのままつける場合と切りとってしまう場合ですが前者の場合は非常にマイルドでウイングがなくても走れる程です。後者の場合はクイックになりとくに高速でのはいりはバツグンです。私たちは人形を切りとしまいオーバーステア気味にしておいてあとはウイングで調整するというセッティングをしています。ただし人形を切りとった場合でも人形の頭のうしろの部分※1は、テフロ又はポリカーボネートの切れはしなどでふさいで下さい。ふさいでおかないとエアークがはいりリヤのグリップが悪くなります。



リヤのカットのしかたによっても多少ステアリングのとく性が変わります。①のカットはノーマルですが②のようにカットしますとコーナーの初期がクイックになります。

⑥〈その他気を付けること〉

- 走行前には必ず「サーシのゆじれチェックをおこなってください。
- SPサスメンバーの場合、フロントバンパーはなくてもかまいません。
- WOLFはバッテリーの取りつけるスペースにかなり余裕がありますのでこれによりステアリング特性がかわります。
オーバーステアにしたければ前よりに、(特に4WDの場合)アンダー気味にしたければうしろよりにバッテリーをしばってください。
- バッテリーのとりつけは「グラステコ」だけだとバッテリーの熱によってぐらついてくる場合がありますので「バッテリーコネクター」と併用すると確実です。
- クラッシュしたときにサスメンバーがずれても左右のステアリング特性が変わってしまいます。必ず確認してください。
- はげしいクラッシュなどでサーシがひねってしまった場合、反対にゆじてなおすのはもちろんですが一度メカシートなどのネジをゆるめてサーシを平行にしてからネジをゆるめると確実です。
- WOLFの場合、リヤタイヤ径にあまり影響をうけません。が「ボディの高さはつねに平行になるように気を付けてください。」リヤが大径なら低めに、小径なら高めになるようにボディマウントで調整します。
- WOLFは他の車に比べコーナーのはいりはバツグンに良いのでクイックすぎると思われる方はフロントのエキスポネシヤルを少しマイルドの方向に動かすとよいでしょう。
- どんなコースでもウイングを調整する方がセッティングが楽におこなえ良い結果が出るとおもいます。

⑦ < 実践セッティング >

ここで書くのは、WOLFの場合の具体例ですが他の車、J-2のグリップ、気温等によりかなり変わる事があります。あくまで参考程度に考えてください。

(グリップのいい路面) ・ だ角をふやす。

[アダーが出る時] ・ フロントタイヤの径を 1~2mm 大きくする。

・ ウィークの角度をへらし前方にずらす。
(特に高速でアダーが出る時に有効)

・ タックルの下のワッシャーを 0.3mm にする (とりさる)
(ワックサは少しきえるが後半でのアダーは出にくくなる)

・ 少しトイにする。(1107-アダーが出にくくなる)

[はねる] ・ リヤタイヤを小径にする。(51mm 以下)

・ ダンパージョイントの動きの確認としめ具合を変える。
(ゆるすぎても つかすぎても はねることがあります。)

(グリップの悪い路面)

[はやりが悪くまきこむ]

・ 少しトアウトにする。

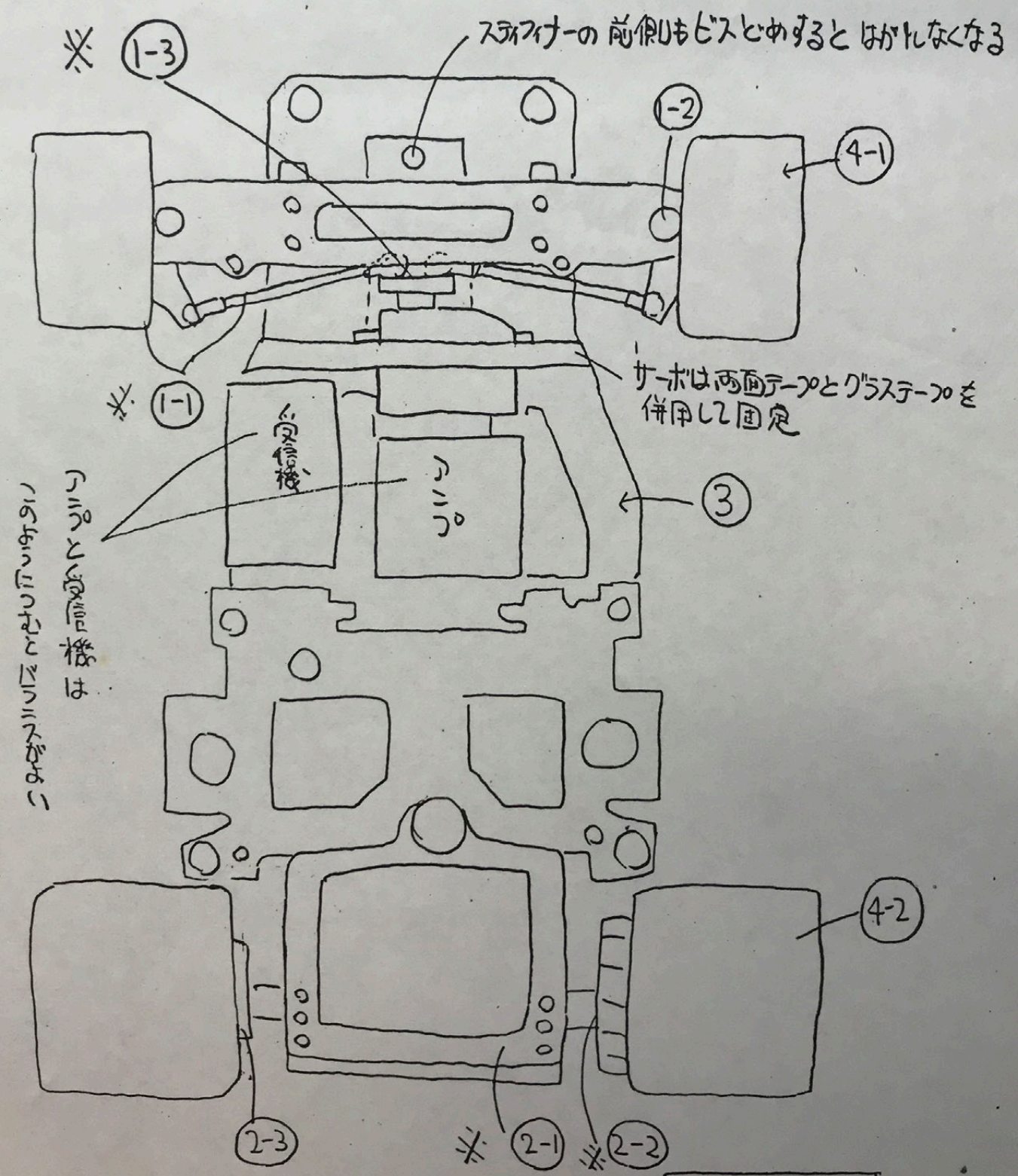
・ タックルの下にも一枚ワッシャーを入れる。

・ リヤを大径にする。(53~55mm くらい)

・ だ角をへらしたり ウィークをうしろにせがたり
フロントタイヤを小径にするのも まきこみ対策には有効ですが コーナーのはやりもわるくなります。

セッティングの基本は、いろいろに 2つ以上のものを変えないで 1つのものを少しづつ変えていき 自分の好みに合わせていきます。

⑧ < マシン総チェック > もう一度 番号の書いてあるところをよく読んで確認してください。



※...重要!!